

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
観 光	○広島県を訪れる国内外の多くの人々に、平和への想い、穏やかな瀬戸内や里山といった自然と暮らしが一体となった情景、古代から戦後の復興までの重層的な歴史・文化、食などの多彩な魅力を通じた、本県でしか得られない価値を提供することで、日本を代表する観光地として評価され、そのことについて県民や事業者が誇りを持っているとともに、観光が県経済を支える産業の一つとなっています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
観 光	●真に価値のある観光プロダクトや多彩で魅力的な観光資源が整っていることで、観光地としての「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」の認知が高まり、広島県を訪れた国内外の多くの人々が、本県でしか得られない価値に触れ、「もう一度、時間をかけて体験したい」、「ほかの魅力にも接してみたい」と思っているだけの観光地となっています。	◆ブランド価値の向上につながる魅力づくり ◆誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備 ◆広島ファンの増加	◇県民に分かりやすく伝える観点から修正（「目指す姿」と「取組の方向」のつながりを明確化） ◇多彩な食資産があるにもかかわらず、県民及び県外からの来訪者に、そのポテンシャルが十分に評価されていないため、「強固なブランドイメージを創るための新たな強みの創出に向けた取組」や「食の多様性の創出に向けた取組」など、価値づくりと価値発信を両輪で進め、ひろしまは美味しさの宝庫であることの認知・共感を高め、農林水産物の消費拡大や観光消費額の増加に繋げる必要がある。【取組の方向】
	●高齢者や外国人を含めた全ての観光客がストレスなく、自然災害発生時等にも安全が確保され、便利に安心して旅行できる環境が整っています。		◇急激な観光需要の高まりを受け、観光関連事業者の人的リソース不足が懸念される中、混雑回避のニーズの高まりや、観光客の地域住民の生活等に配慮した旅行行動への変容等を促す取組が必要となっている。【目指す姿】
	●国内外の多くの方から高く評価され、選ばれる観光地となっていることについて、県民や観光関連事業者が誇りを持っており、県民一人一人が、より一層「おもてなし」の心を持って観光客に接しています。		
	●高まった魅力や評価から得られる誇りを背景に、幅広い事業者が新たに観光に携わり、イノベーションに挑戦し続けることにより、急激な環境変化にも柔軟に対応しています。		◇コロナ禍を経て、人手不足の顕在化やデジタル技術の普及などの観光を取り巻く環境変化に対応していくため、新たな観光人材を育成・確保するための取組や、デジタル技術等を活用した業務効率化などの推進により観光産業を支える土台作りを進める必要がある。【取組の方向】
	●その結果、広島県のブランド価値がより高まり、更なる来訪の増加や評価の高まりにつながるといった好循環が生まれており、基幹産業であるものづくり産業に加え、観光が県経済の成長を支える産業の一つとなっています。		

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
観 光	〇広島県を訪れる国内外の多くの人々に、平和への想い、穏やかな瀬戸内や里山といった自然と暮らしが一体となった情景、古代から戦後の復興までの重層的な歴史・文化、食などの多彩な魅力を通じた、本県でしか得られない価値を提供することで、日本を代表する観光地として評価され、そのことについて県民や事業者が誇りを持っているとともに、観光が県経済を支える産業の一つとなっています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標			
	目指す姿	取組の方向	指標	基準値	現状値	目標値
観 光	●真に価値のある観光プロダクトや多彩で魅力的な観光資源が整っていることで、観光地としての「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」の認知が高まり、広島県を訪れた国内外の多くの人々が、本県でしか得られない価値に触れ、「もう一度、時間をかけて体験したい」、「ほかの魅力にも接してみたい」と思っている観光地となっています。	◆ブランド価値の向上につながる魅力づくり ◆「おいしい！広島」の推進	観光消費額	4,410 億円 (R1)	5,918 億円 (R6)	8,000 億円 (R12)
	●高齢者や外国人を含めた全ての観光客がストレスなく、快適に過ごせるとともに、地域住民の生活環境が維持・向上しています。また、自然災害発生時等にも観光客の安全が確保され、便利に安心して旅行できる環境が整っています。	◆誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備	観光客の満足度	73.4% (R1)	79.9% (R6)	90% (R12)
	●国内外の多くの方から高く評価され、選ばれる観光地となっていることについて、県民や観光関連事業者が誇りを持っており、県民一人一人が、より一層「おもてなし」の心を持って観光客に接しています。	◆広島ファンの増加	住民の満足度	—	60.6% (R6)	90% (R12)
	●高まった魅力や評価から得られる誇りを背景に、県民や幅広い事業者が新たに観光に携わり、イノベーションに挑戦し続けることにより、急激な環境変化にも柔軟に対応しています。	◆3つの柱（「ブランド価値の向上につながる魅力づくり」「誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備」「広島ファンの増加」）を支える土台づくり				
	●その結果、広島県のブランド価値がより高まり、更なる来訪の増加や評価の高まりにつながるといった好循環が生まれており、基幹産業であるものづくり産業に加え、観光が県経済の成長を支える産業の一つとなっています。					

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
スポーツ・文化	○広島東洋カープや広島交響楽団といった戦後復興の象徴として県民と支え合い、歴史とともに築いてきたプロフェッショナル団体等の取組や、駅伝や広島神楽など、地域が大切に育んできた、全国にも誇れるアマチュア団体等の取組によって積み重ねられてきた「広島スポーツ・文化の伝統」に、時代が求める新たなスポーツや文化芸術の要素を取り込みながら、更に磨いていくことで、地域への愛着や誇りの醸成が進み、地域経済の活性化にも結びついています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
スポーツ・文化	●地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、新たな賑わいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。 ●多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、e スポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。 ●スポーツを「する」だけでなく、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」輪が広がることで、県民同士の一体感が高まり、広島が新たな「スポーツ王国」として広く認知され、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。 ●パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。	◆スポーツを活用した地域活性化 ◆誰もがスポーツに親しむ環境の充実 ◆スポーツ競技力の向上	◇第Ⅲ期スポーツ推進計画（R.6.4～）の策定に当たり、広島県スポーツ推進審議会等での議論を踏まえ、スポーツを通じて実現すべき価値を次のとおり再整理した。【目指す姿】 ・県民誰もが、「する」「みる」「ささえる」など多様な形でスポーツを楽しむことで健康と豊かさを実感する。（安心） ・本県の強みであるプロスポーツ等の活躍により熱狂や感動を享受することや、身近な地域のスポーツ資源を活用した地域づくりの取組により、本県や地域社会への愛着や誇りが醸成される。（誇り） ・県民一人一人の資質や志向に応じた挑戦ができる良質なスポーツ実施環境のもとで、スポーツを通じた夢や希望に挑戦できる社会が実現されている。（挑戦） ◇「広島県民の運動・スポーツに関する意識調査（令和6年度）」では、本県の20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率は51.1%と、全国平均の52.5%に比べ、低い状況となっている。 ◇特に男性では40～50代の実施率が、女性では30代～40代の同実施率が低くなっており、県民が身近な公共空間を活用して、誰もがスポーツを楽しめる環境を整える取組の充実が必要である。【目指す姿】

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
スポーツ・文化	○広島東洋カープや広島交響楽団といった戦後復興の象徴として県民と支え合い、歴史とともに築いてきたプロフェッショナル団体等の取組や、駅伝や広島神楽など、地域が大切に育んできた、全国にも誇れるアマチュア団体等の取組によって積み重ねられてきた「広島スポーツ・文化の伝統」に、時代が求める新たなスポーツや文化芸術の要素を取り込みながら、更に磨いていくことで、地域への愛着や誇りの醸成が進み、地域経済の活性化にも結びついています。 ○県民一人一人が、それぞれの価値観やライフスタイルに応じてスポーツや文化芸術を楽しむことで、健康や心の豊かさを実感し、彩りや潤いのある生活を送っています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標																			
	目指す姿	取組の方向																				
スポーツ・文化	●地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、 地域への愛着や誇りの醸成につながっているとともに、新たな賑わいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。	◆スポーツを活用した地域活性化 ◆誰もがスポーツに親しむ環境の充実	<table><tr><th>指標</th><th>基準値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>スポーツを楽しむことを誇りに思う県民の割合</td><td>52.4% (全国1位) (R1)</td><td>69.4% (R6)</td><td>65% (R12)</td></tr><tr><td>週に1日以上以上のスポーツ実施率</td><td>県： 41.8% 国： 53.6% (R1)</td><td>51.1% (R6)</td><td>65% (R12)</td></tr><tr><td>過去1年間に文化芸術活動（鑑賞・体験等）に参加した県民の割合</td><td>鑑賞活動 48.3% 体験活動 19.5% (R2)</td><td>鑑賞活動 62.3% 体験活動 41.1% (R6)</td><td>鑑賞活動 80% 体験活動 50% (R12)</td></tr></table>				指標	基準値	現状値	目標値	スポーツを楽しむことを誇りに思う県民の割合	52.4% (全国1位) (R1)	69.4% (R6)	65% (R12)	週に1日以上以上のスポーツ実施率	県： 41.8% 国： 53.6% (R1)	51.1% (R6)	65% (R12)	過去1年間に文化芸術活動（鑑賞・体験等）に参加した県民の割合	鑑賞活動 48.3% 体験活動 19.5% (R2)	鑑賞活動 62.3% 体験活動 41.1% (R6)	鑑賞活動 80% 体験活動 50% (R12)
	指標	基準値	現状値	目標値																		
	スポーツを楽しむことを誇りに思う県民の割合	52.4% (全国1位) (R1)	69.4% (R6)	65% (R12)																		
	週に1日以上以上のスポーツ実施率	県： 41.8% 国： 53.6% (R1)	51.1% (R6)	65% (R12)																		
過去1年間に文化芸術活動（鑑賞・体験等）に参加した県民の割合	鑑賞活動 48.3% 体験活動 19.5% (R2)	鑑賞活動 62.3% 体験活動 41.1% (R6)	鑑賞活動 80% 体験活動 50% (R12)																			
●多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。																						
● 県民それぞれの思いや環境に合わせて気軽にスポーツを「する」ことに加え、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」など、県民誰もが様々な形でスポーツを楽しむことで、健康と豊かさを実感しています。																						
●パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。																						
● 自らの資質や志向に応じた挑戦ができる良質なスポーツ実施環境により、県民一人一人のスポーツを通じた夢や希望への挑戦につながっています。	◆スポーツ競技力の向上																					

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿（10年後）	取組の方向	
スポーツ・文化	●多様な文化芸術について、県民の様々なニーズに応じた、「鑑賞する」「自ら体験する」ことができる機会が充実し、多くの県民が参画しています。 ●広島を代表する文化芸術として、神楽や交響楽団などが県内外から高く評価されることで、文化芸術に対する県民の関心が高まり、親しむ人が増え、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。 ●地域の歴史文化に触れることができる機会が充実し、また、こうした歴史文化の情報が一元的に集約され、容易にアクセスできるなど、地域の歴史文化を知ることができる環境が整い、県民の理解が進んでいます。	◆文化芸術に親しむ環境の充実	◇文化庁の調査報告によると、コロナ禍を経て、価値観やライフスタイルの多様化が進む中で、生活に安らぎや幸せなどの豊かさをもたらすという文化芸術の本質的な価値や直接体験（本物の良さ）の意義が再評価されており、文化芸術の本質的な価値を県民が実感できるよう取り組んでいく必要がある。【目指す姿】 ◇県民アンケート調査において、「広島県の文化芸術について誇れるものが『特に無い・分からない』」と回答した者が最も多かった。そのため、本県が有する豊かな自然や歴史、風土に培われてきた多彩な文化資源の魅力が十分に県民に浸透し、身近な存在として親しまれるよう取り組んでいく必要がある。【目指す姿】

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》			
	目指す姿	取組の方向	ビジョンに掲げる数値目標			
スポーツ・文化	●県民一人一人が価値観やライフスタイルに応じて文化芸術を楽しみ、生活に安らぎや幸せなどの豊かさをもたらすという実感が広がっています。	◆文化芸術を楽しめる機会の充実と魅力発信	指標	基準値	現状値	目標値
			スポーツを楽しめることを誇りに思う県民の割合	52.4% (全国1位) (R1)	69.4% (R6)	65% (R12)
	●県内の豊かな自然や歴史、風土に培われてきた特色ある文化芸術や、地域で新たに生まれた多彩な文化芸術の魅力が、広く県民に親しまれ、地域への愛着や誇りの醸成につながっています。		週に1日以上上のスポーツ実施率	県：41.8% 国：53.6% (R1)	51.1% (R6)	65% (R12)
			過去1年間に文化芸術活動（鑑賞・体験等）に参加した県民の割合	鑑賞活動 48.3% 体験活動 19.5% (R2)	鑑賞活動 62.3% 体験活動 41.1% (R6)	鑑賞活動 80% 体験活動 50% (R12)

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
平和	○世界で最初の被爆地広島が、平和に関する資源が集まり平和のための活動が効果的に生み出される国際平和の拠点としての役割を果たし、核兵器のない平和な世界の実現に具体的に貢献していくことで、世界中の全ての人たちが、核兵器による脅威から解放され、安心して暮らしています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
平和	●核兵器の存在を前提としない、新たな安全保障政策に基づく多国間枠組みに、核兵器国を含む全ての国の合意、参加を得て、核兵器廃絶の実現に向けた具体的な道筋が明らかになっています。	◆核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成 ◆平和の取組への賛同者の拡大と世界への働きかけ	◇安全保障環境の悪化により、軍拡や核兵器に対する期待が高まる中で、研究分野においても、軍縮に向けた分析をすることが困難になっている。また、核兵器に対する依存や国家間の分断が進んでおり、安全保障の面からの議論が硬直化している。 ◇一方で、将来の地球規模課題を解決する目的で開かれた、令和6年の国連未来サミットでは、核兵器問題が地球規模で解決すべき課題の1つとして位置付けられた。また、核兵器問題と社会的諸課題のつながりに着目して活動する若い世代によるグループも出現している。 ◇こういった外部環境の変化を加味し、引き続き核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方について、これまでの成果を検証する必要があるとともに、追加研究や政策への落とし込みを、多くの研究機関と関わりながら実施していくことが必要である。 また、各国政府への働きかけや多様な主体との連携を強化することで、核兵器問題が環境問題等と同様に、地球や人類の持続可能性に関わる問題として、多国間枠組みである国連の次期開発目標に位置付けられ、各国政府を含む国際社会全体で取り組まれる必要がある。【目指す姿・取組の方向】
	●広島で平和を学んだ将来を担う若い世代が、戦争で傷ついた地域の復興を支える取組に参画するなど、様々な形で平和を希求する活動に持続的に関わることで、世界中に共感の輪が広がり、国際社会に影響を与え、安心して暮らせる平和な世界の実現に貢献しています。	◆広島が有する経験や資源を生かした復興・平和構築	◇被爆の実相を伝えてきた被爆者の高齢化や減少が進むとともに、人材育成プログラムの成果を生かして活動している若者は限定的である。 ◇このような中、未来への平和の思いを繋いでいくためには、日本被団協のノーベル平和賞受賞による核のタブーへの関心の高まりを追い風に、戦争で傷ついた地域の復興を支える取組をはじめ、核兵器廃絶や平和構築に向けた取組を将来的に担う若者の人材育成を加速させるとともに、研修修了生への効果的なフォロー策を検討する必要がある。【目指す姿・取組の方向】
	●賛同者の拡大に伴い、平和に関する人材、知識・情報、資金などの資源が、国内外から、広島へ持続的に集積され、広島が、平和に関する諸課題を解決に導く国際平和拠点として世界中から認知され、平和への期待が集う場所としての役割を發揮しています。	◆持続可能な平和推進メカニズムの構築	

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
平和	○世界で最初の被爆地広島が、平和に関する資源が集まり平和のための活動が効果的に生み出される国際平和の拠点としての役割を果たし、核兵器のない平和な世界の実現に具体的に貢献していくことで、世界中の全ての人たちが、核兵器による脅威から解放され、安心して暮らしています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標			
	目指す姿	取組の方向	指標	基準値	現状値	目標値
平和	●核兵器問題が人類及び地球全体への持続可能性の脅威であるという認識のもと、核兵器の存在を前提としない、新たな安全保障政策が策定されています。また、核兵器廃絶に向けた多国間枠組みに、核兵器国を含む全ての国が合意・参加し、核兵器廃絶の実現に向けた具体的な道筋が明らかになっています。	◆核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成 ◆多国間枠組みの形成を目指した国際社会への働きかけと賛同者の拡大	核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成	合意形成 方針の検討	合意形成に向けた働きかけを実施（R6）	多国間枠組みに核兵器国を含む全ての国が参加（R12）
	●核兵器廃絶や平和構築に向けた取組を世界で実践できるよう広島で平和を学んだ将来を担う若い世代が、様々な形で平和を希求する活動に持続的に関わることで、世界中に共感の輪が広がり、国際社会に影響を与え、安心して暮らせる平和な世界の実現に貢献しています。	◆広島が有する経験や資源を生かした次世代平和人材の育成				
	●賛同者の拡大に伴い、平和に関する人材、知識・情報、資金などの資源が、国内外から、広島へ持続的に集積され、広島が、平和に関する諸課題を解決に導く国際平和拠点として世界中から認知され、平和への期待が集う場所としての役割を發揮しています。	◆持続可能な平和推進メカニズムの構築				

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
働き方改革・ 多様な主体の活躍	○働き方改革などの進展により、女性、若年者、高齢者、障害者、外国人など多様な人材誰もが、働く上での不安や障壁を感じることなく、働きがいをもって思い通りの働き方にチャレンジし、地域や社会とのつながり、望む経験の積み重ねや成長、理想のライフスタイルの実現など、働くことを通じた人生の豊かさを実感しています。 ○企業においては、多彩な人材の視点やアイデア、パフォーマンスによる多様性が発揮されることで、新たな商品やビジネスを創出していくイノベーション力や生産性の高い事業活動を展開しています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
働き方改革・多様な主体の活躍	●県内企業において、テレワークなど時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や、働きやすさのみならず、従業員の働きがいや達成感につながる取組が進むことで、従業員の力が最大限に発揮され組織力が向上するなど、働き方改革を企業成長に生かす取組が先駆的に進んでいます。	◆働き方改革の促進	◇労働力人口の減少や技術等環境の変化が進む中、変化に柔軟に対応しながら企業の持続的な成長につながる「人的資本経営」が着目されており、働きやすさのみならず、従業員の働きがい向上に向けた環境整備を促進するとともに、経営戦略に基づいて人材に投資し育成する取組を促進する必要があります。【領域名、あるべき姿、目指す姿、目標、取組の方向】 ◇いわゆる「M字カーブ」は概ね解消されつつあるものの、出産を契機に多くの女性が非正規雇用化する、いわゆる「L字カーブ」など、依然として、結婚・出産・子育て・介護というライフイベントが働き続けるための障壁となっているため、仕事と家庭を両立しながら働ける環境を整備する必要があります。【目指す姿】
	●様々な職場において、妊娠・出産・子育て等のライフイベントと両立しながら安心して働き続けることができる環境の整備が進むとともに、いわゆる「M字カーブ」が概ね解消されるなど、女性の就業率が向上し、意欲高く、職場において責任ある業務や役割にチャレンジする女性が増えています。	◆女性の活躍促進	
	●県内外の若年者の県内企業への興味・関心や就業意欲が高まることにより、誇りや希望をもって県内での就業と暮らしを選択する若年者が増え、就職に伴う若年者の転出超過数が縮小しています。 ●広島県への移住により、移住者の希望するライフスタイルや働き方の価値観が実現されることで、広島県の移住先としてのブランドが確立され、東京圏等から移住者が高い水準で安定的・継続的に転入しています。	◆若年者等の県内就職・定着促進	

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
働き方改革・ 多様な主体の活躍	○働き方改革などの進展により、女性、若年者、高齢者、障害者、外国人など多様な人材誰もが、働く上での不安や障壁を感じることなく、働きがいをもって思い思いの働き方にチャレンジし、地域や社会とのつながり、望む経験の積み重ねや成長、理想のライフスタイルの実現など、働くことを通じた人生の豊かさを実感しています。 ○企業においては、多彩な人材の視点やアイデア、パフォーマンスによる多様性が発揮されることで、新たな商品やビジネスを創出していくイノベーション力や生産性の高い事業活動を展開しています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標								
	目指す姿	取組の方向									
働き方改革・多様な主体の活躍	●県内企業において、人的資本情報の開示を起点に、可視化された人材に関する課題の解決に向け、リスクリングや働きがいの向上など人への投資により人材の力を最大限に引き出す人的資本経営が先駆的に進み、企業成長が実現しています。	◆人的資本経営の促進	<table><tr><th>指標</th><th>基準値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>従業員が働きがいを感じて意欲的に働くことができる環境づくりに取り組む企業（従業員31人以上）の割合</td><td>30.6% (R2)</td><td>44.6% (R5)</td><td>80%以上 (R12)</td></tr></table>	指標	基準値	現状値	目標値	従業員が働きがいを感じて意欲的に働くことができる環境づくりに取り組む企業（従業員31人以上）の割合	30.6% (R2)	44.6% (R5)	80%以上 (R12)
	指標	基準値		現状値	目標値						
	従業員が働きがいを感じて意欲的に働くことができる環境づくりに取り組む企業（従業員31人以上）の割合	30.6% (R2)		44.6% (R5)	80%以上 (R12)						
●様々な職場において、妊娠・出産・子育て等のライフイベントと両立しながら安心して働き続けることができる環境の整備が進み、出産等を契機に多くの女性が非正規雇用化する、いわゆる「L字カーブ」が解消されるとともに、それぞれのライフステージごとに、希望する多様な働き方を選択することができ、職場において意欲高く、責任ある業務や役割にチャレンジする女性が増えています。	◆女性の活躍促進										
●県内外の若年者の県内企業への興味・関心や就業意欲が高まることにより、誇りや希望をもって県内での就業と暮らしを選択する若年者が増え、就職に伴う若年者の転出超過数が縮小しています。 ●広島県への移住により、移住者の希望するライフスタイルや働き方の価値観が実現されることで、広島県の移住先としてのブランドが確立され、東京圏等から移住者が高い水準で安定的・継続的に転入しています。	◆若年者等の県内就職・定着促進										

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿（10年後）	取組の方向	
働き方改革・多様な主体の活躍	●豊かな経験や知識など高齢者の強みも事業活動に生かしていこうとする企業が増え、県内企業において、高齢者のニーズに応じた雇用の場が広がることにより、高齢者が現役世代と同様に、意欲をもって働くことができる環境の整備が進んでいます。	◆高齢者の就労促進	
	●障害者の就業意欲や個々の能力を積極的に生かしていこうとする企業が増え、障害者の雇用・就労の場が拡大することにより、障害等の有無にかかわらず、意欲をもって働くことができる環境が整うとともに、障害者がその能力や特性を生かして社会参画する機会が増え、経済的な自立が進んでいます。	◆障害者の活躍促進	
	●県内企業等において、外国人材の円滑な受入・就労に必要な環境が整えられ、外国人が地域とつながりを深めながら、生活に必要な情報の共有が進むことにより、外国人が困ったときに相談できるなど、孤立することなく安心して生活し働くことができ、企業における戦力として活躍できる環境の整備が進んでいます。	◆外国人が円滑かつ適切に就労し、安心して生活できる環境整備	

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》											
	目指す姿	取組の方向	ビジョンに掲げる数値目標											
働き方改革・多様な主体の活躍	●豊かな経験や知識など高齢者の強みも事業活動に生かしていこうとする企業が増え、県内企業において、高齢者のニーズに応じた雇用の場が広がることにより、高齢者が現役世代と同様に、意欲をもって働くことができる環境の整備が進んでいます。	◆高齢者の就労促進	<table><tr><th>指標</th><th>基準値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>従業員が働きがいを感じて意欲的に働くことができる環境づくりに取り組む企業（従業員31人以上）の割合</td><td>30.6% (R2)</td><td>44.6% (R5)</td><td>80%以上 (R12)</td></tr></table>				指標	基準値	現状値	目標値	従業員が働きがいを感じて意欲的に働くことができる環境づくりに取り組む企業（従業員31人以上）の割合	30.6% (R2)	44.6% (R5)	80%以上 (R12)
	指標	基準値					現状値	目標値						
	従業員が働きがいを感じて意欲的に働くことができる環境づくりに取り組む企業（従業員31人以上）の割合	30.6% (R2)					44.6% (R5)	80%以上 (R12)						
●障害者の就業意欲や個々の能力を積極的に生かしていこうとする企業が増え、障害者の雇用・就労の場が拡大することにより、障害等の有無にかかわらず、意欲をもって働くことができる環境が整うとともに、障害者がその能力や特性を生かして社会参画する機会が増え、経済的な自立が進んでいます。	◆障害者の活躍促進													
●県内企業等において、外国人材の円滑な受入・就労に必要な環境が整えられ、外国人が地域とつながりを深めながら、生活に必要な情報の共有が進むことにより、外国人が困ったときに相談できるなど、孤立することなく安心して生活し働くことができ、企業における戦力として活躍できる環境の整備が進んでいます。	◆外国人が円滑かつ適切に就労し、安心して生活できる環境整備													

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
産業イノベーション	○国内外の多様な人材や企業が、広島に「集い」、「つながる」ことから創出されるイノベーションにより、基幹産業であるものづくり産業や観光関連産業に続く成長産業が創出され、ほかの地域より競争優位性を有した力強い産業構造となっています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
産業イノベーション	●技術革新や新型コロナ拡大などによる急激な環境変化に対応した「イノベーション立県」の実現や更なる進化に向け、イノベーション力を強化し、県内産業の生産性の向上や、新たな付加価値の創出などを進めることにより、魅力的な仕事や雇用の場を創出し、県経済が持続的に発展しています。		◇AI やデジタル技術などの技術革新等の企業を取り巻く環境変化に対応した支援を進める必要がある。【目指す姿】
	●基幹産業であるものづくり産業が、新しいデジタル技術と一体化していくことにより、新たなビジネスモデルが創出されるなど、更なる発展を遂げています。従来のものづくり技術・技能といった強みに加え、 <u>ユーザー体験に基づく共創活動により新しい価値を創出することで、次に続く成長産業が生まれるとともに、これまでにない広島の強みを生かした産業が出現しています。</u>	◆基幹産業であるものづくり産業の更なる進化 ◆広島の強みを生かした新成長産業の育成	◇今後市場の成長が見込まれる半導体産業などの先端技術産業の更なる集積・育成を促進する必要がある。【取組の方向】
	●国内外の多様な人材や企業が集積し、 <u>企業・大学・金融機関・行政などのプレイヤーが相互につながることで、様々なオープン・イノベーションが生まれ、広島が「イノベーション創出拠点」と国内外から認識されています。</u>	◆イノベーション環境の整備 ◆産業DX・イノベーション人材の育成・集積	◇イノベーションの環境の整備に当たっては、広島県が「イノベーション創出拠点」とであると国内外に広く認識されるだけでなく、 <u>新たな価値を生み出す挑戦者・先駆者の集積が次なる挑戦を呼び込む好循環を創り出す必要がある。</u> 【目指す姿】
	●産業振興に加え、観光振興、地域の活性化の観点からの新たな分野の投資誘致を推進し、 <u>「ビジネスを展開するなら広島」と国内外の働く人や企業から認識されています。</u>	◆企業誘致・投資誘致の促進	◇投資誘致の推進に当たっては、 <u>広島県のビジネス環境等の魅力が広く認識されるだけでなく、人材や企業の集積による好循環を創り出す必要がある。</u> 【目指す姿】 ◇人口減少や少子高齢化の進展により、人手不足が企業の経営課題となる中で、生産性の向上に資する高度人材の集積や、AI やIoT の導入等による自動化・省力化を図る必要がある。【目指す姿】

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
産業イノベーション	○国内外の多様な人材や企業が、広島に「集い」、「つながる」ことから創出されるイノベーションにより、基幹産業であるものづくり産業や観光関連産業に続く成長産業が創出され、ほかの地域より競争優位性を有した力強い産業構造となっています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標								
	目指す姿	取組の方向									
産業イノベーション	●AI やデジタル技術等の技術革新などによる急激な環境変化に対応した「イノベーション立県」の実現や更なる進化に向け、イノベーション力を強化し、県内産業の生産性の向上や、新たな付加価値の創出などを進めることにより、魅力的な仕事や雇用の場を創出し、県経済が持続的に発展しています。		<table><tr><th>指標</th><th>基準値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>県の取組による付加価値創出額</td><td>—</td><td>—</td><td>5,000 億円 (R12)</td></tr></table>	指標	基準値	現状値	目標値	県の取組による付加価値創出額	—	—	5,000 億円 (R12)
	指標	基準値	現状値	目標値							
	県の取組による付加価値創出額	—	—	5,000 億円 (R12)							
	●基幹産業であるものづくり産業が、新しいデジタル技術と一体化していくことにより、新たなビジネスモデルを創出するなど、更なる発展を遂げています。従来のものづくり技術・技能といった強みを生かし、今後市場の成長が見込まれる分野において新しい価値を創出することで、これまでにない広島の強みを生かした産業が出現しています。	◆基幹産業であるものづくり産業の更なる進化 ◆広島 の強みを生かした先端・成長産業の育成・集積									
●広島県が「イノベーション創出拠点」とであると国内外に広く認識され、企業・大学・金融機関・行政などのプレイヤーのつながりにより様々なオープン・イノベーションが生まれることで、更に新たな国内外の多様な人材や企業が集積し、チャレンジする好循環が構築されています。	◆イノベーション環境の整備 「産業イノベーション」、「働き方改革・多様な主体の活躍」内の関連する取組の方向に再編										
●国内外の働く人や企業に、広島県のビジネス環境等の魅力が広く認識され、生産性の高い企業や多様な高度人材が集積することで、更に新たな企業の投資誘致へつながる好循環が構築されています。	◆企業誘致・投資誘致の促進										

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿（10 年後）	取組の方向	
産業イノベーション	●創業や第二創業、企業の成長につながる事業承継が活発に行われ、県経済を牽引する企業の育成・集積が進んでいます。	◆県経済を牽引する企業の育成・集積	
	●県内企業が、デジタル技術等の技術革新に適應し、 <u>持続的に経営改善や生産性向上を推進することにより</u> 、県経済が活性化しています。	◆中小企業・小規模企業の生産性向上・経営改善 ◆企業等の研究開発の支援	◇県民に分かりやすく伝える観点から修正【目指す姿・取組の方向】
	●多くの企業が海外展開するなど、 <u>成長し続ける海外市場の獲得が進んでいます。</u>	◆海外展開の促進	◇県民に分かりやすく伝える観点から修正【目指す姿】

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》											
	目指す姿	取組の方向	ビジョンに掲げる数値目標											
産業イノベーション	●創業や第二創業、企業の成長につながる事業承継が活発に行われ、県経済を牽引する企業の育成・集積が進んでいます。	◆県経済を牽引する企業の育成・集積	<table><tr><th>指標</th><th>基準値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>県の取組による付加価値創出額</td><td>—</td><td>—</td><td>5,000 億円 (R12)</td></tr></table>				指標	基準値	現状値	目標値	県の取組による付加価値創出額	—	—	5,000 億円 (R12)
	指標	基準値					現状値	目標値						
	県の取組による付加価値創出額	—					—	5,000 億円 (R12)						
●県内企業が、デジタル技術等の技術革新に適用し、 <u>持続的な経営改善等に取り組み</u> 、生産性向上を推進することにより、県経済が活性化しています。	◆中小企業・小規模企業の <u>経営改善による生産性の向上</u>													
	● <u>県内企業が、それぞれの業種やステージに応じた海外展開にチャレンジし、海外市場の獲得につなげています。</u>	◆企業等の研究開発の支援												
		◆海外展開の促進												

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
農林水産業	○企業経営を実践している農林漁業者が、世界の最先端技術を活用しながら、競争力の高い農林水産業を展開しています。 ○日本一のかきやレモンに加えて、広島和牛や瀬戸内の地魚などの農林水産物を核とした新たな食の産業が集積され、ひろしまブランドが向上しています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
農林水産業	●スマート農業の実装が進み、全国の中山間地域をリードする生産性の高い農業が確立され、<u>担い手が企業経営を実現するなど、安定した所得を確保しています。こうした経営体が育成されることで、職業として農業を選択する人が増加しています。また、企業経営体をはじめとした担い手が、農村地域のリーダーとして兼業農家など多様な主体と連携し、生産活動を拡大しながら農地の保全活動等に取り組むことで、地域農業を支えています。</u>	◆地域の核となる<u>企業経営体の育成</u> ◆<u>スマート農業の実装等による生産性の向上</u> ◆<u>新規就業者等の新たな担い手の確保・育成</u> ◆担い手への農地集積と基盤整備 ◆<u>中山間地域農業の活性化</u>	◇農業者の減少が進み、耕作放棄される農地が想定以上に増加していることに加え、米の価格が上昇するなど、県民からは安定的な農林水産物の供給を不安視する声が上がっている。そのため、生産性を飛躍的に高める技術を導入し、農業生産の収益力を向上させるとともに、価値に応じた適正価格での農産物流通を実現することにより、若者が就業先として魅力を感じる企業経営体を早急に育成していく必要がある。【目指す姿・取組の方向】 ◇地域での話し合いにより、生産性の高い守るべき農地を明確化し、地域農業の目指す姿や農地の維持方針を整理する必要がある。【取組の方向】 ◇生産性の高い持続可能な農業の実現に向け、担い手の確保・育成、生産性の向上、農地の有効活用といった各施策を総合的に推進するため、取組の方向を再編する必要がある。【取組の方向】
	●広島血統を代表する比婆牛が、価値の高い食材として県民や観光客に喜ばれ、広島を代表する食のひとつとして認識され、<u>同様に、神石牛の認知度も高まっています。また、肥育経営体においては、生産体制と労働環境が整った収益性の高い企業経営が確立されています。</u>	◆持続可能な広島和牛生産体制の構築	◇比婆牛のブランド化によって高まった広島和牛のプレゼンスを生かして、神石牛などのブランド戦略を検討する必要がある。【目指す姿】 ◇広島和牛の生産には、肥育経営や繁殖経営のほか、酪農経営も受精卵移植により子牛生産に関わっている。これらの畜産経営は、輸入粗飼料への依存度が高く、円安や物価高などの社会情勢の変化により大きな影響を受けていることから、飼料自給率を高め、経営体質の強化を図る必要がある。【目指す姿】
	●県内人工林約 14 万 ha のうち、資源循環林 4 万 ha において、林業経営適地の集約化が図られ、経営力の高い林業経営体により、50 年サイクルで年間 40 万 m³ の県産材が安定的に生産される持続的な経営が行われています。また、年間 40 万 m³ の県産材が、生産から流通、加工、利用まで効率的に流れ、社会において有効な資源として利活用されています。	◆森林資源経営サイクルの構築 ◆森林資源利用フローの推進	

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
農林水産業	○企業経営を実践している農林漁業者が、世界の最先端技術を活用しながら、競争力の高い農林水産業を展開しています。 ○日本一のかきやレモンに加えて、広島和牛や瀬戸内さかななどの農林水産物を核とした新たな食の産業が集積され、ひろしまブランドが向上しています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標			
	目指す姿	取組の方向	指標	基準値	現状値	目標値
農林水産業	●スマート農業の実装が進むなど生産性の高い農業が確立され、企業経営を実践する経営体が育成されています。その結果、農業の魅力が高まり、企業経営を目指す若い農業者も増加しています。また、こうした経営体が農地を集積するとともに、多様な主体と連携しながら有効活用していくことにより、農産物の生産が拡大しています。	◆地域の核となる担い手の育成 ◆担い手の経営発展に向けた生産性の向上 ◆担い手への農地集積と基盤整備・保全管理	農業生産額	712 億円 (H30)	757 億円 (R5)	746 億円 (R12)
	●比婆牛や神石牛などの広島和牛が、価値の高い食材として県民や観光客に喜ばれ、広島を代表する食のひとつとして認識されています。また、広島和牛を生産する経営体においては、生産体制と労働環境が整った収益性の高い企業経営が確立されています。	◆持続可能な広島和牛生産体制の構築	農業生産額 1 千万円以上の経営体数	605 経営体 (H30)	654 経営体 (R6)	705 経営体 (R12)
	●県内人工林約 14 万 ha のうち、資源循環林 4 万 ha において、林業経営適地の集約化が図られ、経営力の高い林業経営体により、50 年サイクルで年間 40 万 m³ の県産材が安定的に生産される持続的な経営が行われています。また、年間 40 万 m³ の県産材が、生産から流通、加工、利用まで効率的に流れ、社会において有効な資源として利活用されています。	◆森林資源経営サイクルの構築 ◆森林資源利用フローの推進	農業生産額 1 千万円以上の経営体生産額	234 億円 (H30)	299 億円 (R6)	335 億円 (R12)
			比婆牛を取り扱う高級飲食店の増加数	—	7 店舗 (R6)	30 店舗 (R12)
			広島和牛を肥育する企業経営体数	2 経営体 (H30)	5 経営体 (R6)	15 経営体 (R12)
			広島和牛を肥育する企業経営体の飼育頭数	1,800 頭 (H30)	2,480 頭 (R6)	4,850 頭 (R12)
			集約化された林業経営適地の面積	0ha (H30)	1.4 万 ha (R6)	4 万 ha (R12)
			かき輸出量	1,500t (H30)	1,560t (R5)	2,500t (R12)
			海面漁業生産額 800 万円以上の担い手数	50 経営体 (H30)	46 経営体 (R5)	84 経営体 (R12)
			海面漁業生産額 800 万円以上の担い手生産額	7 億円 (H30)	4.7 億円 (R5)	19 億円 (R12)

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿（10年後）	取組の方向	
農林水産業	●かき養殖においては、デジタル技術を活用した効率的で安定的な養殖が行われ、全国一の生産量が持続されるとともに、産地単位で水産工コラベル認証が取得され、海外輸出にも対応可能な持続的な広島かき生産体制が構築されています。海面漁業においては、資源管理や漁場環境の整備などにより、安定的な漁獲量の確保と供給体制の構築が進んでいます。さらに、かきだけでなく、瀬戸内の多彩な地魚が広島を代表する食材として県民の誇りになっているとともに、観光客の訪問のきっかけになっています。	◆海外展開を見据えたかき生産出荷体制の構築 ◆瀬戸内の地魚の安定供給体制の構築	◇かきの将来的な国内需要の減少を見据え、海外における販路拡大の方向性は維持した上で、海洋環境の変化やかき殻の堆積超過など新たな課題が顕在化している現状を踏まえ、かき生産体制を見直す必要がある。【取組の方向】 ◇瀬戸内さかなの名称で地魚のブランド強化を進めていることから表現を変更【あるべき姿・目指す姿・取組の方向】

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》			
	目指す姿	取組の方向	ビジョンに掲げる数値目標			
農林水産業	●かき養殖においては、デジタル技術の活用や環境変化への対応により、効率的で持続可能な生産体制が再構築され、全国一の生産量が維持されるとともに、国内をはじめ海外における販路が広がっています。海面漁業においては、資源管理や漁場環境の整備などにより、安定的な漁獲量の確保と供給体制の構築が進んでいます。さらに、かきだけでなく、瀬戸内さかなが広島を代表する食材として県民の誇りになっているとともに、観光客の訪問のきっかけになっています。	◆持続可能なかき生産出荷体制の再構築 ◆瀬戸内さかなの安定供給体制の構築	指標	基準値	現状値	目標値
			農業生産額	712億円 (H30)	757億円 (R5)	746億円 (R12)
			農業生産額1千万円以上の経営体数	605経営体 (H30)	654経営体 (R6)	705経営体 (R12)
			農業生産額1千万円以上の経営体生産額	234億円 (H30)	299億円 (R6)	335億円 (R12)
			比婆牛を取り扱う高級飲食店の増加数	—	7店舗 (R6)	30店舗 (R12)
			広島和牛を肥育する企業経営体数	2経営体 (H30)	5経営体 (R6)	15経営体 (R12)
			広島和牛を肥育する企業経営体の飼育頭数	1,800頭 (H30)	2,480頭 (R6)	4,850頭 (R12)
			集約化された林業経営適地の面積	0ha (H30)	1.4万ha (R6)	4万ha (R12)
			かき輸出量	1,500t (H30)	1,560t (R5)	2,500t (R12)
			海面漁業生産額800万円以上の担い手数	50経営体 (H30)	46経営体 (R5)	84経営体 (R12)
			海面漁業生産額800万円以上の担い手生産額	7億円 (H30)	4.7億円 (R5)	19億円 (R12)

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
持続可能な まちづくり	○イノベーションを創出する基盤となる都市と、適度な開放空間があり、心身を癒してくれる自然が近接した本県の強みを生かして、多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が、都市と自然を行き来し、大都市圏では得られないゆとりと安心を実感し、それぞれの仕事と暮らしを楽しむライフスタイルを実現させています。 ○県全体の発展を牽引する広島市や福山市を中心に、沿岸部や山間部の拠点都市が交通や情報ネットワークで結ばれ、相互に連携しながら発展しています。また、県民の日常に不可欠なサービス機能が身近に充足するとともに、デジタル技術やデータなどを活用した、安心して快適に暮らすことができる持続可能なまちづくりが実現しています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
持続可能なまちづくり	●地域特性や規模に応じた拠点ごとに必要な都市機能の集約や災害リスクの低いエリアへの居住の誘導が進むとともに、拠点間が最適な公共交通ネットワーク等で結ばれた、県民の安全・安心で豊かな生活を支える「持続可能な集約型都市構造」の形成が進んでいます。	◆機能集約された都市構造の形成 ◆ネットワーク及び交通基盤の強化 ◆災害に強い都市構造の形成	◇本県の地域公共交通を取り巻く状況は、人口減少による需要の縮小やそれに伴う交通事業者の収支悪化、運転士不足をはじめとする供給面の課題など、厳しさを増しており、国においても令和5年度に地域交通法が改正されるとともに、地域公共交通に関する議論が活発化している。こうした中で、令和6年3月、本県における持続可能な地域公共交通の実現に向け、地域公共交通政策のマスタープランである「広島県公共交通ビジョン」を策定したところであり、移動の需要と供給に応じて各地域が最適な公共交通ネットワークで結ばれるよう、関係者が一体的に取り組んでいく必要がある。【目指す姿】
	●都市機能や居住が集約されたエリアでは、効果的かつ集中的にデジタル技術やデータなどを活用して、質の高いサービスを享受できるとともに、イノベーションを創出する交流の場と心身を豊かにする自然が近接している広島の強みやそれぞれのエリアの特色を生かした、ゆとりと魅力あるまちづくりや居住環境の創出が進んでいます。	◆地域と連携し、地域の特性を生かしたまちづくりの推進 ◆データと新技術を活用したまちづくり（スマートシティ化）の推進 ◆<u>新しい生活様式に対応したまちづくりの推進</u>	◇社会情勢の変化（コロナの終息）に伴う修正【取組の方向】

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
持続可能な まちづくり	○イノベーションを創出する基盤となる都市と、適度な開放空間があり、心身を癒してくれる自然が近接した本県の強みを生かして、多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が、都市と自然を行き来し、大都市圏では得られないゆとりと安心を実感し、それぞれの仕事と暮らしを楽しむライフスタイルを実現させています。 ○県全体の発展を牽引する広島市や福山市を中心に、沿岸部や山間部の拠点都市が交通や情報ネットワークで結ばれ、相互に連携しながら発展しています。また、県民の日常に不可欠なサービス機能が身近に充足するとともに、デジタル技術やデータなどを活用した、安心して快適に暮らすことができる持続可能なまちづくりが実現しています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標			
	目指す姿	取組の方向	指標	基準値	現状値	目標値
持続可能なまちづくり	●地域特性や規模に応じた拠点ごとに必要な都市機能の集約や災害リスクの低いエリアへの居住の誘導が進むとともに、移動の需要と供給に応じて拠点間が最適な公共交通ネットワーク等で結ばれた、県民の安全・安心で豊かな生活を支える「持続可能な集約型都市構造」の形成が進んでいます。	◆機能集約された都市構造の形成 ◆ネットワーク及び交通基盤の強化	居住誘導区域 内人口密度	60.3 人 /ha (R2)	59.1 人 /ha (R6)	60 人 /ha 以上 (R12)
	●都市機能や居住が集約されたエリアでは、効果的かつ集中的にデジタル技術やデータなどを活用して、質の高いサービスを楽しむとともに、イノベーションを創出する交流の場と心身を豊かにする自然が近接している広島県の強みやそれぞれのエリアの特色を生かした、ゆとりと魅力あるまちづくりや居住環境の創出が進んでいます。	◆災害に強い都市構造の形成 ◆地域と連携し、地域の特性を生かしたまちづくりの推進 ◆データと新技術を活用したまちづくり（スマートシティ化）の推進 ◆ゆとりと魅力あるまちづくりの推進	日常生活サービスの徒歩圏 充足率	52.7% (R2)	53.0% (R6)	55%以上 (R12)
			公共交通の機関 分担率	18.7% (R2)	19.9% (R6)	20%以上 (R12)
			防災上危険が 懸念される地 域の居住人口	120 千人 (R2)	108.9 千人 (R6)	100 千人 以下 (R12)
			自然と都市の 魅力を楽しむ、 質の高い暮らし ができると感じ る県民の割合	62.6% (R1)	53.2% (R6)	70%以上 (R12)

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿（10年後）	取組の方向	
持続可能なまちづくり	●広島市都心部においては、利便性の高い公共交通ネットワークの構築や国内外からの来訪者等が気軽に憩えるデザイン性に優れた公共空間の整備等により、人が中心となる都心空間と回遊ネットワークが形成されています。また、大規模オフィスやコンベンション施設、ラグジュアリーホテル等の国際水準の都市機能の強化やイノベーションを生み出す多彩な人材の育成と集積が進んでいます。 ●備後圏域の玄関口である福山駅周辺においては、都市型産業の集積や遊休不動産を活用したビジネスモデルの構築などにより、ビジネスの拠点性が強化され人材が集積されるとともに、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、人の集まる拠点の整備や道路・広場等の整備などが進んでいます。	◆人を惹きつける魅力ある都心空間の創出	

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》			
	目指す姿	取組の方向	ビジョンに掲げる数値目標			
持続可能なまちづくり	●広島市都心部においては、利便性の高い公共交通ネットワークの構築や国内外からの来訪者等が気軽に憩えるデザイン性に優れた公共空間の整備等により、人が中心となる都心空間と回遊ネットワークが形成されています。また、大規模オフィスやコンベンション施設、ラグジュアリーホテル等の国際水準の都市機能の強化やイノベーションを生み出す多彩な人材の育成と集積が進んでいます。 ●備後圏域の玄関口である福山駅周辺においては、都市型産業の集積や遊休不動産を活用したビジネスモデルの構築などにより、ビジネスの拠点性が強化され人材が集積されるとともに、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、人の集まる拠点の整備や道路・広場等の整備などが進んでいます。	◆人を惹きつける魅力ある都心空間の創出	指標	基準値	現状値	目標値
			居住誘導区域内人口密度	60.3人/ha (R2)	59.1人/ha (R6)	60人/ha以上 (R12)
			日常生活サービスの徒歩圏充足率	52.7% (R2)	53.0% (R6)	55%以上 (R12)
			公共交通の機関分担率	18.7% (R2)	19.9% (R6)	20%以上 (R12)
			防災上危険が懸念される地域の居住人口	120千人 (R2)	108.9千人 (R6)	100千人以下 (R12)
			自然と都市の魅力を享受し、質の高い暮らしができると感じる県民の割合	62.6% (R1)	53.2% (R6)	70%以上 (R12)

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
中山間地域	〇里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営んでいると思う人たちが増えています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
中山間地域	●中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材が、<u>将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジを行っています。</u>		◇ビジョン策定時の推計を上回るスピードで中山間地域の人口減少や高齢化が進展する中で、関係人口も含めた地域内外の人々の支え合いにより、持続可能な地域づくりを進めていく必要がある。併せて、マンパワー不足を補うデジタル技術を様々な施策の分野で効果的に活用することで、地域の持続可能性を高めていく必要がある。【目指す姿】
	●地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が広がるとともに、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されています。 <u>そこから、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながる様々な取組が広がっています。</u>	◆人材の発掘・育成、ネットワークの拡大	◇「チーム 500」を中心とした、地域で様々なチャレンジを行う人材確保は、一定の効果が出ているものの、草刈・清掃などの共同作業や伝統行事など、地域に根差した活動を担い、地域住民との結びつきを密にするようなリーダーが不足しており、地域活動を支える地域内外の人材の確保や、コミュニティの形成に向けた仕組みを構築する必要がある。【取組の方向】
	●多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジし、働き続けられる環境が整いつつあります。	◆新たな事業展開に向けたチャレンジ支援 ◆中小企業の成長支援	◇人口減少、高齢化が加速する中、人手不足や事業承継等が経営課題となっている中小企業に対する支援や、生活の糧を得るための働く場の維持・創出に向けた取組を一層推進する必要がある。【目指す姿・取組の方向】

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
中山間地域	〇里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営んでいると思う人たちが増えています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標			
	目指す姿	取組の方向	指標	基準値	現状値	目標値
中山間地域	●中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材によって、様々なチャレンジや、支え合いの輪が広がり、将来に向けて「夢や希望」が持てる新たな地域づくりの取組が始まっています。 また、生活に身近な課題解決をはじめとした、あらゆる取組において、デジタル技術を活用し、地域の持続可能性を高める仕組みが、中山間地域全域で展開されています。		人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム 500」の登録人数	345 人 (R1)	783 人 (R6)	1,000 人 (R12)
	●地域に愛着や誇りを持つ人たちによる、様々なチャレンジが行われるとともに、地域に根差した活動を担う内外の人材が増え、互いにつながり合うことによって、地域を支える人材のネットワークが生まれ、地域の活力を生み出す活動が展開されています。	◆地域を支える人材の確保・育成	中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	54 社 (R6)	320 社 (R12)
	●多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジすることによって、地域産業が維持・成長し、働き続けられる環境が整いつつあります。	◆地域産業の維持・成長支援	デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	22 件 (R6)	10 件以上 [普及展開 20 件以上] (R12)
			地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	—	12 市町 (R6)	19 市町 (R12)

施策領域	現行ビジョン	
	目指す姿（10年後）	取組の方向
中山間地域	●医療・福祉、交通などの日常生活の安心に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、「スマート里山・里海」に向けたモデル的な取組が中山間地域全域で展開されています。	◆デジタル技術を活用した暮らしの向上
	●とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。	◆持続可能な生活交通体系の構築 ◆中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備
ビジョン策定後の課題		
◇住民が、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを営むことができるよう、地域の実態に応じた生活基盤の確保により、安心して暮らせる生活環境づくりを進める必要がある。【目指す姿・取組の方向】 ◇ビジョン策定時の推計を上回るスピードで中山間地域の人口減少や高齢化が進展する中で、関係人口も含めた地域内外の人々の支え合いにより、持続可能な地域づくりを進めていく必要がある。併せて、マンパワー不足を補うデジタル技術を様々な施策の分野で効果的に活用することで、地域の持続可能性を高めていく必要がある。（再掲）【目指す姿・取組の方向】 ◇中山間地域の人口減少の進展は、地域公共交通利用者の減少に直結しており、住民1人当たりの行政コストが増大し、市町の財政を圧迫している。また、既存の公共交通（バス・タクシー）でカバーできないエリアが多く、住民がドライバーを担うなど、地域の輸送資源を総動員していく必要がある。【取組の方向】 ◇中山間地域において、移動・買い物・医療といった地域において住民生活を維持するための自助機能や住民自治組織などの共助機能など、生活を支える各種機能が低下しており、現在の地区・集落の住民自治体制では解決困難な事象が広範囲にわたり健在化しているため、地区・集落の住民自治体制の見直しなど、地域の変化に的確に対応できる集落対策を進めていく必要がある。【目指す姿・取組の方向】		

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》																							
	目指す姿	取組の方向	ビジョンに掲げる数値目標																							
中山間地域	●医療・福祉、交通など、地域の実態に応じた生活基盤の確保によって、人々が安心して暮らせる生活環境づくりが進んでいます。	◆安心して暮らせる生活環境の確保	<table><tr><th>指標</th><th>基準値</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」の登録人数</td><td>345人 (R1)</td><td>783人 (R6)</td><td>1,000人 (R12)</td></tr><tr><td>中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数</td><td>—</td><td>54社 (R6)</td><td>320社 (R12)</td></tr><tr><td>デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出</td><td>—</td><td>22件 (R6)</td><td>10件以上 [普及展開 20件以上] (R12)</td></tr><tr><td>地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数</td><td>—</td><td>12市町 (R6)</td><td>19市町 (R12)</td></tr></table>				指標	基準値	現状値	目標値	人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」の登録人数	345人 (R1)	783人 (R6)	1,000人 (R12)	中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	54社 (R6)	320社 (R12)	デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	22件 (R6)	10件以上 [普及展開 20件以上] (R12)	地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	—	12市町 (R6)	19市町 (R12)
	指標	基準値	現状値	目標値																						
	人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」の登録人数	345人 (R1)	783人 (R6)	1,000人 (R12)																						
中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	54社 (R6)	320社 (R12)																							
デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	22件 (R6)	10件以上 [普及展開 20件以上] (R12)																							
地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	—	12市町 (R6)	19市町 (R12)																							
	●とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、地域の移動実態に応じた交通再編や新たな移動サービスの普及が進むことで地域コミュニティ内での日常生活に必要な移動が確保されるとともに、地域で支え合い、誰もが移動をあきらめないことのない地域づくりが進んでいます。	◆暮らしを支える生活交通の確保 ◆中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備																								
	●集落において、今後見込まれる変化に的確に対応するための住民主体の話し合いが行われ、自治活動の見直しや、暮らしを支える生活サービス機能の確保など、集落の状況に応じた取組が進むことで、将来に対する不安が解消されつつあります。	◆持続可能な地域づくりに向けた集落対策の推進																								

現行ビジョン	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
交流・連携基盤	○国内外の人・モノが、県内の空港・駅・港湾や幹線道路等から円滑かつ安全に出入りし、多様な交通ネットワークによって県内を迅速かつ円滑に移動しています。

施策領域	現行ビジョン		ビジョン策定後の課題
	目指す姿	取組の方向	
交流・連携基盤	●ビジネスや観光、日常生活において県内外を移動する人が、快適かつ適切なコストで利用できる交通基盤や MaaS 等の多様な交通ネットワークから、それぞれの目的に応じた最適な手段を組み合わせ、便利で快適に移動しています。	◆世界とつながる空港機能の強化 ◆人・モノの流れを支える道路ネットワークの構築	◇運輸業界の人手不足を踏まえ、モーダルシフト（陸上運送から海上運送への転換）の更なる促進や、貨物専用機（フレイター）の定期就航など、物流最適化に向けた取組を強化する必要がある。 【目指す姿・取組の方向】
	●県内及び周辺地域の立地企業とその相手先企業が、本県の港湾サービスと多様な交通ネットワークなどを組み合わせて利用することにより、それぞれの企業が希望する最適な物流ネットワークを構築しています。	◆世界標準の港湾物流の構築とクルーズ客船の寄港環境の整備	
	●国内外から本県を訪れる人が、クルーズ客船で安全かつ快適に寄港し、地域の魅力に触れることで高い満足度が得られています。		

見直し骨子（案）	
施策領域	あるべき姿（概ね 30 年後）
交流・連携基盤	○国内外の人・モノが、県内の空港・駅・港湾や幹線道路等から円滑かつ安全に出入りし、多様な交通・物流ネットワークによって県内を迅速かつ円滑に移動しています。

施策領域	見直し骨子（案）		《参考》 ビジョンに掲げる数値目標			
	目指す姿	取組の方向	指標	基準値	現状値	目標値
交流・連携基盤	●ビジネスや観光、日常生活において県内外を移動する人が、快適かつ適切なコストで利用できる交通基盤や MaaS 等の多様な交通ネットワークから、それぞれの目的に応じた最適な手段を組み合わせ、便利で快適に移動しています。	◆世界とつながる空港機能の強化 ◆人・モノの流れを支える道路ネットワークの構築	広島空港利用者数	297 万人 (R1)	287 万人 (R6)	360 万人 (R12)
	●国内外から本県を訪れる人が、クルーズ客船で安全かつ快適に寄港し、地域の魅力に触れることで高い満足度が得られています。	◆クルーズ客船の寄港環境の整備	県内港におけるコンテナ取扱量	36 万 TEU (R1)	35 万 TEU (R6)	48 万 TEU (R12)
	●県内及び周辺地域の立地企業とその相手先企業が、陸送、海運、空輸といった多様な交通ネットワークを利用することにより、それぞれの企業が希望に応じた、競争力強化に資する持続可能で最適な物流ネットワークが構築されています。	◆産業活動の基盤となる物流ネットワークの構築	年間渋滞損失時間	4,500 万時間 (R1)	4,180 万時間 (R6)	3,000 万時間 (R12)